

校長室からのお知らせ

5月12日号 NO.5

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野武志

家庭訪問 ありがとうございます

昨日までの4日間、家庭訪問にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。ご自宅の所在地の確認が主な目的ですが、校区が広く自転車の交通ルールが改正されたこともあり、先生方は苦勞されていました。ただ、家庭訪問に行く機会がなくなったことをちょびっとだけ寂しく思っていました。

さて、家庭訪問の思い出を書いてみようかと企んでいます。現在では考えられないようなこともあります。35年以上も昔の話なので、深く追求しないでください。

先生になれた最初の家庭訪問では、ほぼすべてのお家で用意して下さったアイスコーヒーとクッキーなどの焼き菓子か冷たいお茶とお饅頭などの和菓子を遠慮もせず完飲完食し、先輩の先生から厳しいご指導をいただきました。36人の学級でしたので、3日間の家庭訪問期間に1日当たり6個か7個のお饅頭を食べていたと思います。若かったので無理なく美味しく頂戴しましたが、今なら胸やけ必至です。

次年度の家庭訪問では、最後に来てほしいとの要望にお応えし訪問したところ、お父様とその部下の方たち（厳格な縦社会の校務員さんです）に囲まれ、最近見なくなった桶に入った高級なお寿司と昔の定番だったキリンラガービールを振る舞われ、顔を真っ赤にして帰校すると心配して待って下さった先輩の先生にあきれられたことを覚えています。ただし、家庭訪問で何を話したのかは思い出すことはできません。

その他にも強烈な思い出が多々あるのですが、さすがに紙面ではお伝えすることは控えたほうが良さそうなので、ご披露するのは退職前にします。

今思うと、習い事をしている子も少なく放課後に余裕があり、時間がゆっくりと流れていたようで、家庭訪問には必ず複数の子ども（多い時には10人を超えていました）がついてきて、次のお家までの案内役をしてくれ、移動の時間も楽しかったです。放課後の子どもたちは、学校の中とは違った一面を見せてくれることもあり、有意義な時間になっていたと思います。

校長室からのお知らせ

5月19日号 NO.6

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野武志

5月ですが

「2026年5月の日本は、全国的に平年より気温が高く、汗ばむ暑さの日が多い見込みです。中旬以降は30℃以上の真夏日となる所もあり、早い段階から熱中症への警戒が必要な状況です。10年に1度レベルの高温が予想される日もあります。」という予測を見ました。春を通り過ぎ、いきなり夏がやって来た感じがします。学校でも毎日「岸和田市の熱中症情報（WBGT近似値）」を確認し、子どもたちが安全に過ごせるように配慮していますが、暑さに慣れていないこの時期は特に注意が必要だと考えています。保護者のみなさまにはご苦勞をおかけいたしますが、お子さまが登校する際に多めのお茶と汗拭き用のタオルやハンカチなどを用意していただくようお願いいたします。

また、お子さまが学校内や登下校時に少しでも体調での違和感を覚えたときは、近くの先生や大人に助けを求めるようにくれぐれも伝えておいてください。声をかけたり助けを求めたりすることを、恥ずかしがったり遠慮したりすることのないよう、お子さまに時間をかけて理解させてください。「何よりも命が大切」だということを繰り返しお子さまに教えてください。どうかよろしくお願いいたします。

岸和田市の小学校では、熱中症対策の一環としてウォーターサーバーが2台(学校の規模によって設置台数は違います)設置されることになりました。昨日、テトル配信などでお知らせいたしておりますが、少し補足いたします。

昔の学校に設置されていたウォータークーラー（冷水機）ではなく、ウォーターサーバーになります。ウォータークーラーはボタンを押したり足元のペダルを踏んだりすると、噴水のように水が出てきて口を近づけて直に飲むことができます。しかしながら、設置予定のウォーターサーバーは、大型ショッピングセンターのフードコートなどに置かれているコップや紙コップ等で、レバーを奥のほうに押し付けた分だけ水が出るタイプになります。そのため、水とうがなければ水を補充することができません。あくまでも用意していただいた水とうの中が空っぽになったときのための「補充用」となります。ご理解とご了承をお願いいたします。

校長室からのお知らせ

5月26日号 NO.7

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

いろたらあかん？

早朝でも明るく暖かくなっていますので、始発に乗って出勤しています。昨年も少し紹介させていただきましたが、一駅だけご一緒する年配の2人の女性の会話にはまっています。

Aさん「最近来たさらの子に他人さんの机、勝手にいろたらあかんよって言うたら、えって顔すんねんで。」

Bさん「何でよ？」

Aさん「いろたらあかん が分からんねんで。」

Bさん「いろたらあかん は いろたらあかんやん。」

Aさん「そやろ。けど今の子は 触ったらあかんって言うねんで。今の子の言葉は難しいわ。」

Bさん「ほんまや。ほんまや。」

って話を笑いをこらえながらこっそり聞いていました。「いろたらあかん」もそうですが、「さらの子=新入社員」も大阪弁らしくて和みます。しかしながら、関西以外の人には意味不明な言葉だと思えます。

「自分 ええしの子か？」という表現も本来ならば「あなたは良家のお金持ちの家の子どもですか？」ですが、「自分=相手のこと」や「ええし=お金持ちの家」って理解してもらうのは難しいと思います。ほかにも「水屋=食器棚」や「けったい=奇妙」、「こすい=ずるい」や「ぐねる=捻挫」、「よして=仲間に入れて」や「さぶいぼ=鳥肌」など、聞く機会が少なくなってきたようですが、残していききたい言葉だと感じています。

そういえば、岸和田で働くようになって「鍵 かいだ？=鍵をかけた？」って聞かれて困ったことがありました。「しちやる=してあげる」や「早よ食べり=早く食べて」、「さいでんから=さっきから」や「だんない=かまわない」など、尾野の地元の兵庫県尼崎市では聞いたことのない表現でした。

子どもが言う「醤油」が英語の「Show You=しょうゆう」に格好よく聞こえて、自宅では「醤油ラーメン」を「Show You ラーメン」って言うようになっています。影響を受けやすい体質だと家族から呆れられています。

校長室からのお知らせ

6月9日号 NO.8

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

人権学習参観 ありがとうございます

先日の休日参観には、多数の保護者の方にご来校いただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

人権に関する学習は、いかがでしたでしょうか。様々な視点から多様な人権に関する学習の取り組みをご覧いただきましたが、ご家庭でお子さまと人権に関して話し合う機会をもっていただくことが、大きな成果になると考えております。よろしくお願いいたします。

さて、偉そうなことを書いていながら、私自身が誰よりも人権感覚を磨かなければいけない存在であるため、少し勉強に勤しんでおります。最近、学んだことの一つにアンコンシャス・バイアス（無意識の思いこみ）があります。過去の経験や知識などから、無意識のうちに特定の属性や状況に対して偏った見方をしてしまうことですが、自分自身に対する思い込み（インポスター症候群など）もあるようです。子どもは、無限の可能性を秘めています。しかしながら、これまでの経験や思いこみで「無理」や「できない」ときめつけ、自分自身で自分の可能性をつぶしている子が多いと感じています。やってみる前に諦めてしまうのは、自分自身へのアンコンシャス・バイアスです。100回挑戦してうまくいなくても、101回目にはできるかもしれません。子どもたちには、挑戦し続けるポジティブ思考を身につけてほしいと思います。

保護者のみなさまには、お子さまが結果を出したことと同じくらい結果を出すために挑戦し続けたことを褒めていただきたいと思います。また、歌唱力に自信がある保護者の方には、ドリカムさんの歌の「何度でも」の「10000回だめで かっこ悪くても 10001回目は 何か 変わるかもしれない」って歌ってあげていただきたいと願います。本気で努力し、悩み、何度も挑戦し、積み重ねていけば、次の1回が奇跡を呼ぶかもしれないと歌声で伝えていただければと思います。決してふざけているわけではなく、本気で思っています。たった一度だけですが、ドリカムさんのコンサートに連れていかれて、思わず感動した私の経験を基にお伝えしています。